

Satellite2011 米国宇宙展示会に参加して

JA2012国際航空宇宙展の出展勧誘活動の一環として、米国宇宙展示会で最大規模を誇る展示会（Satellite2011）を訪問し、海外の宇宙関連企業に日本航空宇宙産業の現況を説明すると共に日本市場への期待や関心度等をヒアリングした。

日本では2008年に宇宙基本法、2009年に宇宙基本計画が策定され、JA2008開催以降、宇宙関連産業を体系的に促進する環境整備も進んでいる。

今回Satellite 2011の様子を報告し、より多くの宇宙関連企業の関係諸氏がJA2012出展を検討頂けることを期待する。

1. Satellite2011の概要

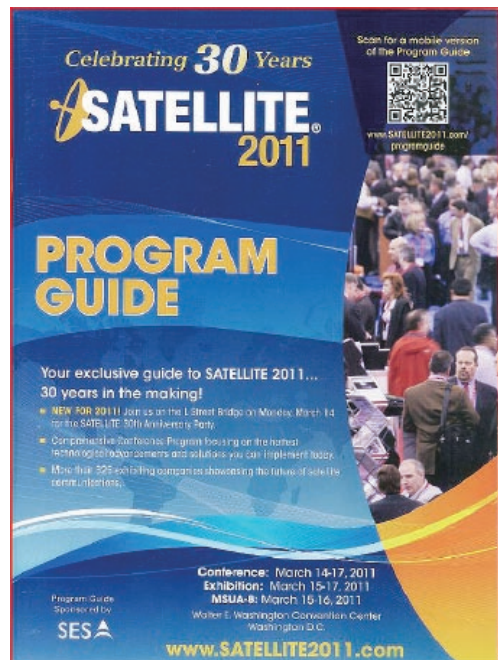
Satellite2011は民間の衛星活用を主とし、Offshore Communications社が主催する宇宙民間ビジネスのトレード展示会である。

<http://www.satellitetoday.com/satellite2011/>

この展示会は3月15～17日の3日間がブース展示、各種シンポジウムやセミナーは1日前の14日から始まり4日間の日程となっている。

会場は米国を代表する大型展示会場ワシントンDCコンベンションセンターで、毎年開催され今回が30回目を数える。

各企業の展示ブースもシンポジウムも会場内の施設にて実施され、Satellite2011のブース出展企業は、世界各国から325社が出展、シンポジウムを含めた各国からの参加者は、70カ国から4日間トータルで1万人に達した。



2. 宇宙産業の市場規模

宇宙産業の市場規模については、米国の衛星工業会SIA（Satellite Industry Association）のデータを基にしてFurton社から産業実態調査報告が出されている。このなかで宇宙産業とは、①衛星製造分野、②打上げ機製造及び打上げサービスからなる打上げ機分野、③衛星地上局及び衛星電話、衛星放送受信、GPSの端末からなる地上機器分野、及び④衛星を使って放送等のサービスを提供する衛星サービス分野の4分野に分類されている。



Satellite2011入場門から展示会場へ

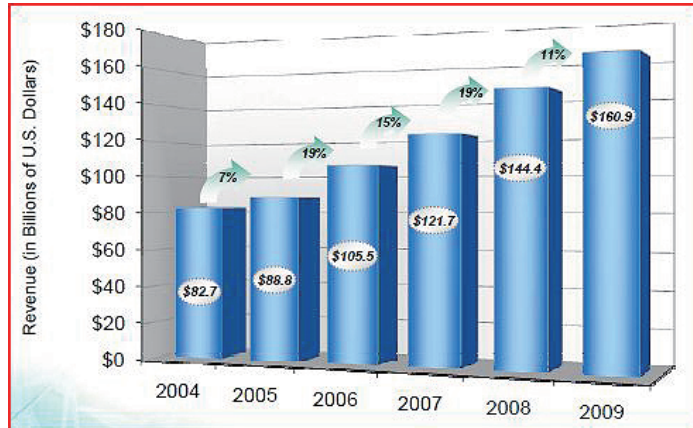


図1 世界の宇宙関連産業の総売上高 [2004年～2009年] (*1)

図1は2004年から2009年までの5年間の世界の宇宙産業の総売上の推移である。2009年の総売上は1,609億ドルの規模となっており、年平均11.7%の拡大基調を示している。

3. 衛星と商用打上げ機の需要予測

商用打上げ機及びそれによって打上げられる衛星の需要予測に関しては、米国FAA (Federal Aviation Administration) が毎年予測

報告を出しており、2009年から2018年の10年間における需要予測は、表1に示すとおりである。

表1によると、静止軌道衛星が年平均20.8機 (合計208機) で安定的に推移すること、及び非静止軌道衛星が年平均26.0機 (合計260機) で変動があるものの全体としては安定的に推移することが予測されている。

	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	合計	平均
人工衛星												
静止軌道衛星	27	21	22	20	20	20	19	20	20	19	208	20.8
非静止軌道衛星	19	53	26	12	14	37	41	36	12	10	260	26.0
合計	46	74	48	32	34	57	60	56	32	29	468	46.8
打上げ需要												
静止軌道衛星 (中型～大型)	21	16	17	15	15	15	14	15	15	14	157	15.7
非静止軌道衛星 (中型～大型)	6	10	6	7	8	12	12	11	6	5	83	8.3
非静止軌道衛星 (小型)	2	5	4	2	3	2	2	2	3	2	27	2.7
合計	29	31	27	24	26	29	28	28	24	21	267	26.7

表1 衛星及び商用打上げ機の需要予測 (*2)



広さ4万4千㎡の大きな展示会場に325社が展示

4. 展示企業の状況と日本への期待

この展示会の特徴は、世界有数のインテルサット、コムサット、ヒスパサット、スカパーJSATなど衛星運用会社が13社、アリアンスペース、EADSアストリウム、スペースXなどの衛星打上げ企業4社、ボーイング、ロラール、ジェネラルダイナミックスサットコムテクノロジー、ロッキードマーチン、GE、L-3、EADS等の衛星機器製造企業、その他アンテナ、電源、ケーブル等の地上機材製造企業、衛星の目的に則した放送、撮影、測量、観測機器等の製造企業、エンジニアリングサービス、システムインテグレーションなど多くの分野からの出展があることである。日本からは、スカパーJSAT、NEC、ISTコーポレーションの3社がブース展示を行った。

このように各分野から多くの出展があることで、分野相互の商談が活発に行われており、また同業他社であっても世界各国の参加により切磋琢磨する様子が伺われた。米国の展示会ということもあり海外企業の中ではカナダ、英国、イスラエルの出展企業が多かった。

今回、JA2012出展勧誘活動を通じて、まずJA展示会が知られていないこと、さらには日本の企業の取り組みが知られていないことが目立った。また中小企業では東京に事務所を設置した企業もあり、日本の宇宙戦略への対応に期待する企業も多い。JA2012では宇宙産業の現状や将来展望について各国にアピールし、ビジネスチャンスをつくれるよう会員企業はじめ、日本の宇宙関連企業を支援していく必要がある。

国名	企業数	国名	企業数	国名	企業数
米国	229	スペイン	5	オランダ	1
カナダ	23	韓国	4	オーストリア	1
英国	16	日本	3	ノルウェー	1
イスラエル	12	イタリア	2	ウクライナ	1
中国	7	シンガポール	2	オーストラリア	1
フランス	5	ロシア	1	台湾	1
ドイツ	5	ベルギー	1	UAE	1

表2 国別出展企業数

5. 所感

今回、展示会を視察して、衛星サービス分野及び地上機器分野の企業出展が多く、2項3項に裏付けられるように、右肩上がりの市場に各企業の期待も大きいことが分かった。

また今後インフラ整備を計画する国は、地上系施設より有利な衛星利用を促進することが見込まれ、世界的には衛星通信放送、測位を中心として衛星サービス分野及び地上機器分野の市場が期待でき、我が国の衛星製造、打上げ機分野の海外展開の促進が望まれている。

る。JA2012においても、このようなトレンドを掴み、出展者ニーズに応えられる展示会とすべく計画を進めていく所存である。

参考資料

- *1 “State of the Satellite Industry Report”
June 2009, sponsored by the SIA,
Prepared by Futron Corp..
- *2 “2009 Commercial Space Transportation
Forecasts”, May 2009, FAA’s AST and
COMSTAC.

〔(社)日本航空宇宙工業会JA事務局兼国際部 部長 宮 修一〕